

## 2023年度 アフリカ協会 服部禮次郎アフリカ基金 活動報告書

1. 業務の概要	
(1)テーマ	「スポーツを通じたセネガルの障害者のエンパワメントと社会参加促進」
(2)実施団体名	一般社団法人 WITH PEER
(3)実施期間	2024年1月～2024年8月
(4)実施国	セネガル共和国
(5)活動地域	ティエス州ティエス県ティエス市
(6)活動概要	
① 活動の背景:	
セネガルにおける「障害」の状況	
<p>■セネガルは 2013 年の統計調査において、およそ 80 万人が何らかの障害があると言われている。セネガルの障害児・者が置かれている状況は厳しく、国立盲学校は1校しかなく、多くの視覚障害者が十分な教育を受けられずにいる。近年、セネガルもインクルーシブ教育を導入し、ダカールを中心に展開しているが、そこに通う障害者は喘息等の軽度の障害のある児童に限られている。また就労に関して、正規雇用者約 0.4 万人、未就労約 61 万人などセネガル政府が掲げるユニバーサルヘルスカバレッジ政策を障害者は十分に裨益できていない。</p> <p>(参考:<a href="https://libopac.jica.go.jp/images/report/1000044898.pdf">https://libopac.jica.go.jp/images/report/1000044898.pdf</a>)</p>	
セネガルの「障害」課題に対して、スポーツでできること	
<p>■「障害」課題の解決のために、街のバリアフリー化や障害者も当然にアクセスできる行政・福祉サービスの提供などの政策的アプローチがある。同時に、「障害」の原因を個人ではなく社会(障壁、人々の態度)が作り出しているという「社会モデル」の視点が不可欠である。</p> <p>■そのためには、第一に障害者のエンパワメントと社会参加が促進されること、第二に「障害」を作り出している側が「社会モデル」の視点を持つこと、障害者との交流を通じてお互いに自己理解と他者理解を深めること、第三に障害者が開発における様々なレベル・場において意思決定に参加し、その結果として生み出された成果や機会に参加していくことが重要である。</p> <p>■この観点からスポーツを捉えると、スポーツを通じ、障害者自身の自己肯定感、自己効力感を育むことができ、他者(健常者含む)との協働や協力を通じて何らかの役割を担うことができ、その責任の下で社会的な活動に参加する機会を増加させることができる。</p>	
② 活動の目的:	
パラスポーツおよびユニバーサルスポーツを通じ、セネガルの障害者のエンパワメントを後押しするとともに、障害者と非障害者とがスポーツ体験の共有を通じて、社会的・心理的距離を縮め、障害者に対する偏見や差別の解消を、現地の障害当事者らが取り組むことに寄与する。	

## 2. 業務実施結果

### (1)実施した内容

#### ① 「障害の社会モデル」の啓発を通じた「障害」課題に関わる人材の能力強化

1-1 「障害平等研修」を現地パラスポーツ/ユニバーサルスポーツ関係者、それらのスポーツに携わる障害当事者やその家族に対して実施。

※障害平等研修:障害者自身がファシリテーター(対話の進行役)となり、企業や自治体などの組織を対象に、発見型学習という対話に基づく方法を用い、障害者を排除しないインクルーシブな組織づくりを参加者と一緒に考えていく研修。

JICA パラグライ事務所の視覚障害当事者である福地氏が講師を担当し、障害平等研修を開催した。参加者は、肢体不自由者であるボッチャファシリテーター4名、スペシャルオリンピクス3名、インクルーシブ教育プログラム担当1名の計8名が参加した。

#### ② 障害者のスポーツへのアクセシビリティ向上

2-1 身体活動機会が限られる視覚障害のある児童(特に女子)の運動機会向上を目的に、ブラインドフットボールを含むアクティビティの質向上のための参加促進プログラムを実施。

日本の視覚障害当事者である落合氏のアドバイスのもと、国立盲学校在籍の視覚障害がある女兒(小学1-6年生)28人向けに体を動かすアクティビティを提供。各アクティビティを撮影し、解説動画を作成し、児童に配布。

2-2 現地女性コーチや障害当事者コーチの指導力向上のためのワークショップを実施。

国立盲学校で開催されるブラインドフットボールの練習に参加し、コーチに指導のフォローアップを実施。セネガル視覚障害スポーツ協会が主催で国内大会を開催し、アドバイザーとして大会運営をサポート。全国から2地域4チームが出場。

2-3 ブラインドフットボールをティエス市に加えて3地域(ダカール市、カオラック市、サンルイ市)でも継続的に実施されるようコーチ育成ワークショップを実施。

カオラック市とサンルイ市で、弊社主催のブラインドフットボールコーチ研修を実施。参加者は、主に非障害者の学校教員やサッカーコーチで、カオラック市5名、サンルイ市5名の計10名が参加。研修の講師は、視覚障害当事者であるブラインドフットボール代表選手が担当した。ダカール市の研修は、セネガル視覚障害スポーツ協会が担当し研修を実施。弊会は、準備段階の研修プログラム案の作成サポートで協力。

#### ③ ユニバーサルスポーツによる多様な人々が尊敬し、繋がりを築くコミュニティづくり

3-1 障害当事者のボッチャファシリテーターの能力強化ワークショップ(大会計画、準備、運営、予算管理等)を実施。

障害者センターを中心に昨年ボッチャのファシリテーター育成ワークショップの参加者である9名(肢

体不自由者：男性 8 名・女性 1 名)が、能力強化研修に参加し、大会計画、準備、運営、予算管理等を学び、体験会の計画立案を行なった。また新規ボッチャファシリテーター育成研修を行い、12 名が研修に参加した。この研修では、能力強化研修に参加した資格保有者が研修会の講師を担当。

3-2 育成した障害当事者ボッチャファシリテーターと共に、市内や他地域におけるユニバーサルスポーツの体験会を開催。

3-1 能力強化研修で計画を立案したボッチャの体験会を、研修受講者自身が障害者センター外で開催。計 48 名が体験会に参加。

3-3 障害のある/なし/障害種別によらず地域の人々がスポーツ体験を共有し、互いの相互理解を深めることができるユニバーサルスポーツイベントを開催。

肢体不自由者の障害者センター、スペシャルオリンピクス、インクルーシブ教育プロジェクト、弊会が共催で、ユニバーサルスポーツフェスタを開催。参加者は、ボッチャやブラインドフットボール、ウォーキングフットボール、ゴールボール、モルックなどを体験。参加者は、就学前の児童から高齢者まで、男女合わせて 87 名(肢体不自由、視覚障害、知的障害)。

## (2) 実施成果：

### ① 「障害の社会モデル」の啓発を通じた「障害」課題に関わる人材の能力強化

1-1 プロジェクト実施地域の障害当事者を含むパラスポーツ及びユニバーサルスポーツ関係者、インクルーシブ教育実践校教員、家族が「障害」とは機能的な障害の有無ではなく、社会の障壁や人々の態度によって生まれるという「障害の社会モデル」の視点を獲得する。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会でも関係者に実施された障害平等研修を、活動 3-3 のユニバーサルスポーツフェスタの機能的な障害の有無によらないコア運営メンバーになりうる肢体不自由者の障害者センター、スペシャルオリンピクス、インクルーシブ教育プロジェクトの担当者を対象に実施した。同研修は、「障害」の原因が「個々人の機能的障害」にあるのではなく、「社会や人々の態度」の中にあるという「障害の社会モデル」の視点を獲得して、社会をよりインクルーシブなものにするための行動を獲得することに主眼がある。研修参加者は当初ほとんどの参加者が障害を「医療モデル」で捉、障害＝「機能的な手足が動かない、目が見えないなどの身体的な制限」と考えていた。しかし、研修後、参加者全員が障害＝「周囲の人々の態度や社会や環境による障壁」という考えに変化し、障害の社会モデル」の視点を獲得した。本研修により「障害インクルーシブ」にむけて参加者がエンパワメント(行動の獲得)している。

1-2「障害の社会モデル」の視点を元に、障害インクルーシブなスポーツのあり方、教育のあり方、スポーツを通じた障害インクルーシブなコミュニティづくりに向けた行動を獲得する。

障害平等研修の参加者は、「障害の社会モデル」の視点をもとにした行動を、本プロジェクトに活かすことができた。具体的には、活動 3-3 ユニバーサルスポーツフェスタで発揮された。研修参加者は意思決定の段階から準備に参加し、毎週のミーティングでユニバーサルスポーツフェスタ開催に必要な予算費目の検討、準備物、役割分担、進捗確認等をそれぞれの責任をもって進めた。本研修によって、ユニバーサルスポーツフェスタの準備段階からアクティビティの選定、対象とする参加者、場の設計などを検討する際に「誰もが一緒にできるように」という観点で議論をすることができていた。参加者の選定

やグループ分けを考える際に、「多数の障害種別(肢体不自由者、聴覚障害者、知的障害者、視覚障害者、アルビノ)が参加できること」、「非障害者と混ぜ合わせるようにグループ組みをすること」、「アクティビティの体験内容をどのように組めば一緒にアクティビティができるか」等を検討することができた。また、肢体不自由の人が「トイレにアクセスできるか」「どこを歩いて会場に入れるか」など事前に会場を運営メンバーと視察しアクセシビリティを調査することもできた。研修参加者の議論や準備によって、イベントは、障害児・者が非障害児・者と一緒のグループメンバーとして楽しめるようにグループ分けされ、誰もが参加者として交流し合いながら楽しめる機会となった。ボッチャやモルックなどは、障害当事者がファシリテーターを務め、参加者にルール説明、デモンストレーション、子どもや大人の参加者たちとの積極的なコミュニケーションが見られた。イベント後の振り返りでは、関係団体で構成されるユニバーサルスポーツ協会(仮)を設立して、障害インクルーシブなコミュニティづくりを目的にアクションを起こしていく発意がされた。

今後もユニバーサルスポーツを通じたインクルーシブなコミュニティづくりを担う人材育成の一環として、障害平等研修の実施とその研修ファシリテーター育成にむけて検討していく。

## ② 障害者のスポーツへのアクセシビリティ向上

### 2-1 女性コーチや視覚障害のあるコーチの指導力向上により、視覚障害のある児童(特に若年層や女子)がブラインドフットボールを含むアクティビティに参加できるようになる。

これまで国立盲学校でブラインドフットボールの活動を行っていたが、視覚障害のある児童が参加する機会、人数が少ないことが問題であった。ブラインドフットボールは、運動を始めるには運動強度が高い側面があり、女子が参加するには敷居が高いことが課題となっていた。そこで、日本の視覚障害当事者と共に監修したアクティビティ作成し、国立盲学校の小学生年代の女子児童にアクティビティを提供した。年齢の低い頃から運動に親しみ、体を動かすことに慣れることを狙った。バカンス期間にも家族や友達とできるように動画にし、QRコードで読み込みルールを動画で見れるように資料を配布した。活動を共にした女子コーチからは、「女子児童は、空き時間に昼寝かおしゃべりをしているかで、運動をしたいと思うだけで、運動をする機会がなかった。これを機に友達と気軽に運動してくれると良い」との声があった。

### 2-2 育成されたコーチによって、ティエス市以外の3地域で視覚障害者がブラインドフットボールに定期的に参加できるようになる。

活動地域のティエス市では昨年コーチ研修を開催したが、その他の地域からもコーチ研修を希望する声が上がっていた。その他地域では、ブラインドフットボールを指導できる人材がない現状があり、研修を担当するセネガル視覚障害スポーツ協会も研修の経験不足・リソース不足を抱えていた。視覚障害者がブラインドフットボールをはじめスポーツにアクセスできる機会を広げるためにも、ティエス市以外で3地域を選択し、コーチ育成研修会を開催した。弊会が担当したサンレイ市・カオラック市は計10名のコーチが育成され、コーチを中心にブラインドフットボールの活動が、地域のスポーツ行政機関と連携して行われ、地域の視覚障害者が定期的にブラインドフットボールに参加できる機会が整備された。

研修では、ブラインドフットボールの概要を学んだ後、コーチ自身が体験を通して学びを深め、実際に視覚障害のある選手への指導を実践する機会を設けた。実際にコーチ自身がブラインドフットボール体験を通じて、指導のポイントや困難さを抱えるポイントなどを理解し、2日目の視覚障害児への模擬指導に活かすことができていた。参加者はそれぞれの専門性を生かし、子供達の様子に合わせなが

ら指導を丁寧に実践することができていた。具体的には、指導する際にアイマスクをしている選手に言葉だけでなく自分の体を触らせたり、一つずつ説明を分けたりなど工夫をしていた。

ティエスから派遣した視覚障害当事者のコーチが講師を担当し、事前の講習内容な実技などを調整し当日も側につきながらも情報を網羅しながら研修を進めることができていた。また現地サポート講師とも連携しながら運営することができた。研修の講師を視覚障害当事者のブラインドサッカー選手が担当したことで、障害当事者の彼自身の能力強化にもつながっている。この彼は、セネガル視覚障害スポーツ協会が主催したダカール市の研修会でも講師を務めることができていた。研修地のスポーツ行政担当者も研修を視察し、本活動を後押ししてくれるとの言葉をもらった。開催後には、積極的にコーチ達がりやりとりをして練習会やイベントに参加するなど動きが始まり、地域の参加者からは、「コーチ研修を行ってくれたおかげで、活動地域でブラインドフットボールの活動を始めることができた。地域の関係者と協力して続ける」との声が上がっている。

### ③ ユニバーサルスポーツによる多様な人々が尊敬し、繋がりを築くコミュニティづくり

#### 3-1 パラスポーツやユニバーサルスポーツの継続的な取り組みに向けた障害当事者間及び障害者と非障害者間のネットワークが構築される。

ユニバーサルスポーツによるコミュニティ開発、障害者種別を超えたつながり、障害者と非障害者のネットワークを構築すべく、日本の事例をセミナーで紹介したところ、現地から開催したいという声が上がったため、障害のある/なし/障害種別によらず地域の人々がスポーツ体験を共有し、互いの相互理解を深めることができるユニバーサルスポーツフェスタを開催した。

開催実施後の振り返りでは、これまでバラバラだった機能障害別の団体が横断的に協力し合って実現できたことに大きな成果があったとの共通認識が醸成された。この取り組みをきっかけに他団体の横断的な関係ができ、障害当事者間及び障害者と非障害者間のネットワークを構築することができた。

またこうした取り組みを継続していくために、関係団体で構成されるユニバーサルスポーツ協会(仮)を設立して同種の取り組みを継続していくという発意が表明された。当日運営に携わった障害当事者からは、「私はユニバーサルスポーツフェスタの計画段階から運営に携わり当日はモルックのファシリテーターを担当しました。当日は、とてもフレンドリーな雰囲気の中で開催することができました。障害のある人なら誰でも参加できるこのユニバーサルスポーツでは、(障害者の)私たちは安心してスポーツをすることができます。こうしたユニバーサルスポーツとその取り組みがセネガル全土に広まることを願っています。私のような障害者も、脳卒中の人も、そして他のすべての人も、誰もが参加できるスポーツなのです。」とコメントがあった。課題としては、参加者のジェンダー比では男性9割女性1割であったこと、若年層の肢体不自由児・者参加が少なかったことなどの気づきから、今後の開催に向けては地域の障害当事者団体などへの告知や働きかけ、当事者同士の誘い合いの強化が挙げられる。また、このイベントを契機に、福祉関係者、スポーツ行政関係者、教育行政関係者、普段スポーツに馴染みのない障害者とのつながりを社会の中で築いていくことも重要である。

#### 3-2 障害当事者ファシリテーターが障害者センター以外の場所でユニバーサルスポーツの体験会や大会を企画・運営・実施できるようになる。

前年度育成したボッチャファシリテーターがユニバーサルスポーツフェスタ等の開催に必要な能力(予算を管理しながら体験会を自主的に企画・運営できるようこと)を獲得できるよう能力強化研修(ステップ2)を実施した。同時にまた彼ら/彼女らが新たなボッチャファシリテーターを育成するためのワークショップ(ステップ1)実施をサポートした。これにより約 20 名のボッチャファシリテーターが育成さ

れた。このファシリテーターたちは、知識としてだけでなくボッチャのユニバーサルスポーツとしての側面を経験的に理解しているため、障害のある/なし/障害種別によらず集まれる場所を作れるようになってきている。これまでもファシリテーターの面々から、「街中で体験会をしたらもっとボッチャを知ってもらえるのでは」という提案があった中で、実際に研修内で彼ら自身が体験会を計画することができた。体験会を計画するにあたって、過去のイベントをもとに彼ら自身が検討すべき事項を話し合ってもらったが、最初は日程と場所などは出てくるが、予算や備品、招待者などの項目は出てきづらかった。各班について質問を投げかける中でその項目も必要だと気づき、項目を詳細に上げることができていた。何が必要かと問いかけるだけでなく、過去のイベントから引き出す手立ては非常に有効だったと感じている。また対象の参加者を決める際に、障害者だけではなく、非障害者に参加してもらうために近隣の中学校に声をかけるのはどうか。などの意見も出ており、ボッチャで作りたい空間を理解していることが読み取れた。そして、能力強化研修で企画した体験会を、実際に活動施設の肢体不自由者の通所作業施設である障害者センター外で開催し、自らで企画・準備したボッチャ体験会を運営することができた。参加者は計 48 名で、障害当事者だけでなく非障害者の子供や女性も参加し、初めて参加する人も一緒に楽しむことができていた。運営した障害当事者メンバーは「この体験会の場に、子供から女性まで多くの参加者が集まって、一緒にボッチャをできる機会を作れたことは非常によく自信になった。」と語っていた。次のステップとして、障害当事者のファシリテーターやリーダーを中心にこの取り組みをティエス市からその他地域に広げていくことが課題である。

### 3. 活動写真

#### 1-1: 障害平等研修



#### 2-1: 視覚障害の女兒アクティビティ



## 2-2:ブラインドフットボールコーチフォローアップ



## 2-3:ブラインドフットボール 3 地域コーチ育成研修



## 3-1:ボッチャファシリテーター能力強化研修



## 3-2:障害者センター外でのボッチャ体験会



3-3:ユニバーサルスポーツフェスタ



以上